

# ミヤマシジミ 上下流意見交換会を開催 in 天竜川（静岡県浜松市）

天竜川の伊那谷では、信州大学名誉教授を会長＋活動団体により、ミヤマシジミ研究を平成25年に設立し、保全・保護活動と研究活動を実施。中村先生の調査により、ミヤマシジミが天竜川の浜松市にもいることを知り、天竜川下流域を管轄している、浜松河川国道事務所にお問い合わせ、天竜高校がミヤマシジミの保護を模索しながら取り組んでいるが、知識も少なく苦慮しているとのことであった。ミヤマシジミ研究会に相談したところ、意見交換会を行い、活動の一助となりたいとのことから、上下流の意見交換会を7月9日（火）に開催。



ミヤマシジミのオス

◎ミヤマシジミ(学名  
Lycaeides  
argyrognomon)  
鱗翅目シジミチョウ科2-3  
cm

日本以外に朝鮮半島、ロシア、ヨーロッパ、北アメリカに生息。日本ではかつて本州の中部・関東・東北地方に広く分布、現在では長野、山梨、静岡県以外の地域では、急激に生息地が減少。絶滅危惧I B類、長野県版レッドデータブック準絶滅危惧、13の県が絶滅危惧種に指定



天竜高校環境科の活動報告



研究成果の意見交換

【参加者】  
(上流側)  
信州大学名誉教授  
中村 寛志  
伊那市ミヤマシジミを守る会  
岡村 裕  
辰野生きものネットワーク  
土田 秀実  
(下流側)  
静岡県立天竜高等学校  
実習課長 加藤 秀世  
環境課生徒7名  
浜松かわ・みちボランティアクラブ  
田光 宏三  
  
(国土交通省)  
天竜川上流河川事務所  
浜松河川国道事務所



生徒と活動団体の皆さん



現地視察(天竜高校保護地)

現地にて、ミヤマシジミ発見！



ミヤマシジミのメス

ミヤマシジミの幼虫は、日本では小低木のコマツナギ(マメ科)しか摂食しません。田畑の畦畔や河川敷に多く残されていました。最近では長野県においても、農業技術の進歩や河川の整備に伴ってコマツナギの群落が減少し、ミヤマシジミも見られなくなってきました。天竜川上流河川事務所においては、ミヤマシジミの保護地・生息地を守るために、ミヤマシジミ研究会に、堤防の除草時期や方法など意見を聞きながら、保全・保護活動に協力しています。



笑顔、きらきら、天竜川。

天竜川上流河川事務所